

<全体分析>

試験時間 90分

解答形式

記述・論述・描図・選択・マーク

分量・難易 (前年比較)

分量 (減少・やや減少・変化なし・やや増加・増加)

難易 (易化・やや易化・変化なし・やや難化・難化)

出題の特徴

設問総数はやや減少したが、選択問題がなくなり、問形式の設問が大幅に増加したために作業量はやや増加した。

その他トピックス (入試改革の方向性を踏まえた目新しい出題など)

特になし。

<大問分析>

番号	出題形式	出題分野・テーマ	範囲	コメント (設問内容・答案作成上のポイントなど)	難易度
I	空所補充 (記述) 問形式 (記述)	力学 (万有引力)	物理	前半は潮汐力が関わる問題、後半は円運動と楕円運動を絡めた問題で、全体を通して近似計算を的確に処理する必要がある。	やや難
II	空所補充 (記述) 問形式 (論述・ 記述)	電磁気 (電磁誘導・ 荷電粒子の運 動)	物理	前半は空間的に一様でない磁場中を運動する導体棒の電磁誘導を扱い、後半ではさらに磁場を時間変化させたときの電子の運動を扱っている。設問「ト」では円運動の式から導出したものも正解になるだろう。	難
III	空所補充 (記述) 問形式 (記述・ 論述)	波動 (波の式・光 の干渉)	物理	薄膜による光の干渉を波の式の振幅と位相の変化から考えさせる問題で、題意が読み取りにくく、問形式での計算も煩雑で全問を解答するのは困難である。	難

※難易度は5段階「易・やや易・標準・やや難・難」で、当該大学の全統模試入試ランキングを基準として判断しています。

<学習対策>

1. 基本事項を正確に把握する。
2. 題意を正しく把握するための読解力を養う。
3. 図を用いて状況設定を正しく把握する習慣を身につける。
4. 正確で迅速な計算力を養う。